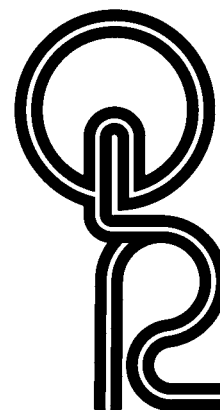


QR Newsletter



第四紀通信

Vol. 17 No.2, 2010



島根県浜田市姉金に分布する鮮新-更新統都野津層の露頭。都野津層は基盤岩が侵食されてできた谷を埋積して分布し、これらの谷の縁では陸-海境界の様々な堆積物が見られる。写真は鳥趾状三角州の堆積物と解釈されたもので、河川流路の堆積物と考えられる砂層（写真左）がマウンド状に積み重なり、側方には内湾で堆積したと考えられる泥層が分布する（立石ほか 2007；第四紀研究）。このような地層は相対的な海水準の上昇に伴う河川の沈水過程で形成されたものと考えられ、河川卓越型の鳥趾状三角州の形成は潮汐・波浪の影響が相対的に弱かったことを示唆する。（撮影 立石 良）

Vol. 17 No. 2

April 1, 2010

2010年大会案内・・・・・・・・・・	2	シンポジウム報告・・・・・・・・・・	11
大会発表申込書・・・・・・・・・・	4	シンポジウム案内・・・・・・・・・・	12
大会ポスターサロン申込書・・・・・・	5	評議員会議事録・・・・・・・・・・	12
地球惑星科学連合大会案内・・・・・・	6	幹事会議事録・・・・・・・・・・	15
学会賞・学術賞受賞者講演会報告・・	10	会員消息・・・・・・・・・・	16
学会賞・学術賞受賞者講演会案内・・	11	地球化学研究協会学術賞公募・・	16

◆日本第四紀学会 2010年大会案内（第2報）・発表申し込み

<大会の概要>

1. 日時・開催場所：2010年8月20日（金）～8月22日（日）
東京学芸大学（東京都小金井市貫井北町4-1-1）

2. 日程

8月20日 一般研究発表（口頭およびポスター）・評議員会
8月21日 一般研究発表（口頭およびポスター）・総会・懇親会
8月22日 午前：学会賞・学術賞受賞者講演会、午後：シンポジウム
8月23日 巡検

3. 発表の申し込み締め切り：2010年6月10日（木）

4. シンポジウム

公開シンポジウム「自然史の教育と研究をすすめるために一さまざまな分野からの取り組み」
世話人：小泉武栄・目代邦康・関 秀明・辻村千尋・植木岳雪・久保純子
依頼講演と「ポスターサロン」（公募展示）により行います。
講演の詳細については次号で案内します。

「ポスターサロン」では、自然史教育・研究普及のために行われている取り組みを自由形式で展示し、意見交換・情報交換を行います。通常のポスター発表とは異なり、パンフレットやちらし、写真などを模造紙に貼る形式でも構いません。また、発表要旨の代わりに活動内容やこのサロンでアピールしたいこと（または期待すること）を簡単に記したものを申し込みの際に提出していただきます。「ポスターサロン」は、会員以外の個人・団体の参加も可能としますが、日本第四紀学会の目的から著しく逸脱する場合は、参加をお断りする場合があります。

5. 巡検の概要

8月23日 巡検「里山生態系の違いを探るー地生態学の視点からー」（案内者：増沢有葉・小泉武栄）（日帰り）
詳細と申し込みは次号で案内します。

6. 大会実行委員会

実行委員会委員長 小泉武栄
連絡先：実行委員会事務局長 目代邦康 mokudai(at)pro-natura.jp
（財）自然保護助成基金
〒150-0046 渋谷区松濤1-25-8 松濤アネックス2F
tel. 03-5454-1789 / fax. 03-5454-2838

<発表の申し込み>

1. 一般研究発表の申し込み

一般研究発表は口頭発表とポスターセッション（詳細は、要旨集原稿の送付先の後にあります）が行われます。登壇者（筆頭者）としては1人1件のみの発表が可能です。

一般研究発表希望者は、日本第四紀学会ホームページ（<http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr/>）より、「第四紀学会一般発表申込書」（MS-Excelファイル形式）をダウンロードし、必要事項を記入の上、6月10日（木）までに専用アドレス（[jaqua2010\(at\)gmail.com](mailto:jaqua2010(at)gmail.com)）あて、電子メール（メールの題名は必ず「一般発表申込」としてください）の添付ファイルでお送り下さい。なお、電子メールが使用できない場合は、4ページにある「発表申込用紙」（コピーでもよい）に所定の事項を記入の上、講演要旨と共に郵送で下記行事担当幹事あてお送り下さい。

また、本発表申し込み末尾の「4. 講演要旨執筆上の注意」を熟読の上、その内容を理解し、遵守するようにお願いします。このことについての同意の意思表示は、申込書該当欄に氏名を記入（入力）することで成立するとします。

講演要旨は、「3. 講演要旨の原稿の書き方」にしたがった写真製版可能な原稿およびそのコピー1部と共に6月10日（木）までに下記行事担当幹事あて郵送して下さい（必着厳守）。講演要旨原稿は2ページ分執筆してください。原稿の行事担当幹事への到着をもって受付とします。

要旨集原稿・発表申込用紙の送付先：

〒169-8050 新宿区西早稲田1-6-1

早稲田大学教育学部 日本第四紀学会行事担当幹事 久保純子 あて

(要旨集原稿は郵便でお願いします。メール添付は受け付けていません。また送付先は実行委員会ではありませんので、お間違えのないようにご注意ください)。

口頭発表(オーラルセッション)およびポスターセッションでの発表

時間は1件15分程度(質疑応答時間を含める)を予定しています(発表件数によって変更の可能性あり)。十分な説明や討論を希望する方にはポスターセッションへの申込をお勧めします。またポスター発表者には口頭ショートサマリー発表(1件あたり2~3分程度)をお願いするほか、ポスターの前で説明するコアタイムを設ける予定です。

2. シンポジウムの依頼講演と「ポスターサロン」申し込み

シンポジウムは依頼講演と「ポスターサロン」形式とします。

シンポジウム依頼講演者の方は、「3. 講演要旨の原稿の書き方」にしたがった写真製版可能な原稿およびそのコピー1部を6月10日(木)までに上記の行事担当幹事までお送り下さい(必着厳守)。原稿枚数は2ページまたは4ページでお願いします。

「ポスターサロン」は情報交換・意見交換を目的として、一般ポスター発表よりも小さい区画で、自由形式で展示ができます。写真やパンフレット、ちらし、手書き模造紙などでも結構です。

参加希望者は、日本第四紀学会ホームページ(<http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr/>)より、「第四紀学会ポスターサロン申込書」(MS-Excelファイル形式)をダウンロードし、必要事項を記入の上、6月10日(木)までに専用アドレス(jaqua2010(at)gmail.com)あて、電子メール(メールの題名は必ず「ポスターサロン申込」としてください)の添付ファイルでお送り下さい。なお、電子メールが使用できない場合は、5ページにある「ポスターサロン申込用紙」(コピーでもよい)に所定の事項と内容の紹介を記入し、郵送で上記の行事担当幹事あてお送り下さい。

3. 講演要旨の原稿の書き方

原稿用紙は、発表者各自が用意したA4版白紙を、横書き・縦置きで使用してください。左右各2.5cm、上端3.0cm、下端3.5cmは空白にしてください。表題・著者名は、(例)のように和文表題・著者名(所属)、英文著者名・表題の順に書いてください。和文表題は、1行目の左側を1.5cmあけて(左端から4.0cm)左詰めで書いてください。2行以上にわたる場合でも1.5cmあけて左詰めで続けてください。和文著者名は、和文表題の後改行して、発表者を右端に右詰めで書いてください。2行以上にわたる場合でも1.5cmあけて右詰めにしてください。所属は和文著者名の後にカッコを入れて簡潔に書いてください。英文著者名・表題は和文著者名の後改行して、左詰め著者名・表題の順に「;」でつないで書いてください(所属は不要)。

本文は英文表題の次の1行をあけて書き始めてください。行数・字数は自由ですが、36行・35字程度を目安としてください。不明な場合は昨年の要旨集を参考にしてください。本年も同一仕様です。ワープロ使用の場合は濃く印字してください。

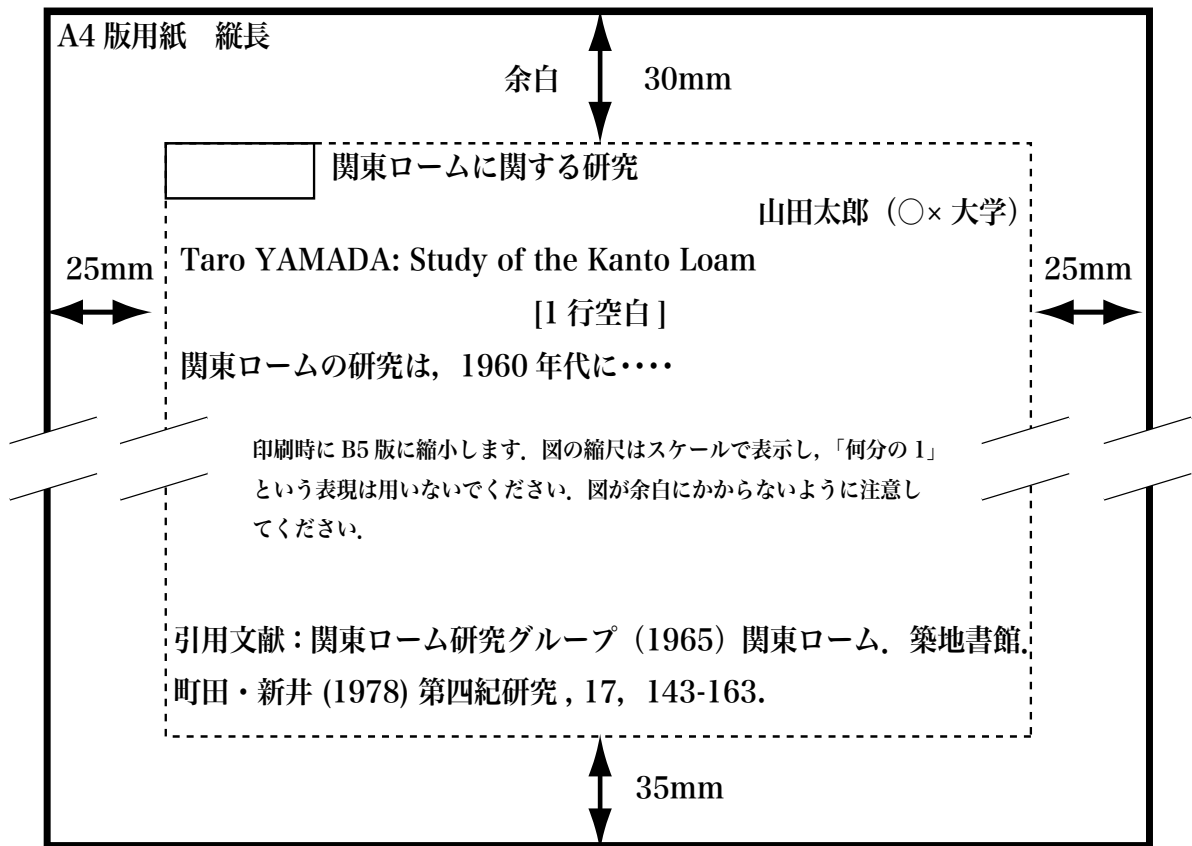
手書きの場合は黒色インクまたは黒色ボールペンを使用し、濃く細く書いてください。手書き図表の場合には黒インクを使用し原稿用紙に直接描くか、あるいは青色方眼紙・白紙・トレーシングペーパーなどに清書して枠内に貼ってください。図が原稿の上下端、左右端の空白部分にかからないようにご注意ください。印刷時にA4の原稿がB5版に縮小されますので、図の縮尺については「何分の1」という表現はしないで必ずスケールを入れてください。

4. 講演要旨執筆上の注意

2010年3月現在、講演要旨の著作権につきましては、厳密な規定がありません。そこで、現段階では基本的には発表者の方に著作権があるものと判断します。一方、昨今の知的財産権をめぐる情勢から見て、送付いただいた講演要旨に図の転載許可が得られていないものや、文献の引用が不十分なものがあると、問題が生じる可能性があります。従いまして以下の点についてご注意の上で執筆下さるようお願いいたします。なお、以下の点について問題があると判断された講演要旨原稿については、原稿受付後であっても再提出を求める場合があります。

- 1) 既存の出版公表物などに対する知的財産権へのいかなる侵害も含まぬこと。
- 2) 他から転載されている全ての図表について、転載許可を得ていること。
- 3) 他の論文等の引用がある場合には、当該文献を全て明記する。引用形式としては、「竹内ほか(2005)第四紀研究, 44, 371-381.」などのように、引用箇所が判別できる限りにおいて簡略化して構わない。
- 4) 日本第四紀学会の名誉を傷つけ、第四紀研究の信用を毀損する盗用データ、捏造データ、その他学会の倫理憲章に反するものを含まないこと。
- 5) 講演要旨についての問い合わせ、苦情、紛争などが発生した場合、発表者はすべての責任を負うこと。

講演要旨の書き方の例



発表申込書

(電子メールで下記の内容を送信すれば本申込書は郵送不要)

氏名・所属				
講演題目				
代表者の連絡先	〒			
	e-mail:	TEL:	FAX:	
発表種別 (○をつける)	一般研究発表			シンポジウム
	口頭発表	ポスター	どちらでもよい	
液晶プロジェクター・OHPの使用 (○をつける)	液晶プロジェクター	液晶プロジェクター+OHP	OHP	その他
「講演要旨執筆上の注意」を理解し、その内容を遵守するならば、右にサインして下さい。				
				サイン _____

◆日本地球惑星科学連合 2010 年連合大会プログラム

日本地球惑星科学連合 2010 年連合大会が下記のとおり開催されます。2010 年連合大会には前年比 2 割増の 3600 件を超える発表が申し込まれ、6 日間の会期で開催されます。日本地球惑星科学連合が発足して満 5 年、法人化して 2 年目を迎え、地球惑星科学を学際的に盛り上げていく場として合同大会の意義はより一層重要度を増しています。みなさまの積極的な参加を期待しています。

- ・期日：2010 年 5 月 23 日（日）～ 28 日（金）
 - ・場所：幕張メッセ国際会議場
 - ・大会詳細：<http://www.jpгу.org/meeting/index.htm>
 - ・確定プログラムプログラム web 公開：2010 年 4 月 7 日
- 各セッションの日程と会場は上記大会ウェブサイトで確認できます。
事前参加登録（割引料金）締切：2010 年 4 月 9 日（金）正午

第四紀関連オーラルセッション（一部抜粋）

日	時間	セッション名	会場
5 月 23 日	9:00 ~ 12:15	H-SC015 : 人間環境と災害リスク	展示別室 3
5 月 23 日	10:45 ~ 17:00	O-ES005 : ジオパーク	302
5 月 23 日	13:45 ~ 15:15	H-SC019 : ダム堆積物問題（堆砂と排砂）に対する地球科学的アプローチ	展示別室 3
5 月 23 日	13:45 ~ 17:00	H-GG001 : Global Land Project と地球惑星科学	202
5 月 24 日	9:00 ~ 12:15	IS011 : 変わる年代のものさしー日本における第四紀・第三紀を考えるー	304
5 月 24 日	9:00 ~ 17:00	H-DS021 : 湿潤変動帯の地質災害	展示別室 3
5 月 25 日	9:00 ~ 15:15	H-GM005 : 地形	展示別室 3
5 月 25 日	15:30 ~ 17:00	M-IS002 : 堆積物・堆積岩から読みとる地球表層環境情報	202
5 月 26 日	9:00 ~ 15:15	S-SS017 : 活断層と古地震	展示別室 1
5 月 26 日	9:00 ~ 15:15	A-CG032 : 海と陸の気候ー過去から現代までの変動解明へのアプローチ	展示別室 2
5 月 26 日	10:45 ~ 17:00	H-DS022 : ヒマラヤにおける氷河湖拡大と決壊洪水	140
5 月 26 日	15:30 ~ 17:00	H-DS024 : 活断層と地震災害軽減	展示別室 1
5 月 26 日	15:30 ~ 17:00	B-BG006 : サンゴ礁：生命・地球・人の接点	展示別室 2
5 月 27 日	9:00 ~ 10:30	B-PT014 : 低緯度域の気候変動と間接指標の開発	301B
5 月 27 日	10:45 ~ 17:00	H-QR010 : ヒトー環境系の時系列ダイナミクス	展示別室 1
5 月 28 日	9:00 ~ 12:15	H-QR011 : 沖積層研究の新展開	展示別室 3
5 月 28 日	13:45 ~ 17:00	A-PE025 : 古気候・古海洋変動	展示別室 1
5 月 28 日	13:45 ~ 17:00	A-CC022 : 氷床・氷河コアと古環境変動	展示別室 1

各セッションのポスター発表は、ポスター共通コアタイムとして、17:15 ~ 18:45 に設定されていますが、セッションによっては他の時間中に独自のコアタイムが設定されている場合がありますので、ご注意ください。

日本第四紀学会主催セッション

3 月 9 日現在での暫定的なプログラムです。紙面節約のため筆頭発表者のみ記されています。確定したプログラムは 3 月 19 日頃に発表者に通知され、4 月 7 日以降大会ウェブサイトで確認できます。

セッション H-QR010 『ヒトー環境系の時系列ダイナミクス』オーラルセッション

5 月 27 日（木）10:45 ~ 17:00 幕張メッセ国際会議場展示ホール 7 別室 1

10:45 ~ 長田俊樹ほか 環境変化とインダス文明

11:00 ~ 前杢英明ほか 聖なるサラスヴァティー川は大河だったのか？ーインダス文明の盛衰と河川環境の変化

- 11:15 ~ 奥野淳一 インド西部グジャラートにおけるハイドロアイソスタシーによる海水準変動とインダス文明盛衰との関係
- 11:30 ~ 宮内崇裕ほか 海湾に面するインダス文明の盛衰に影響を与えた完新世後期海岸平野の環境変化—地形発達と相対的海面変化の分析から—
- 11:45 ~ 中村淳路ほか ネパール、ララ湖堆積物コアを用いた完新世におけるアジアモンスーンの復元
- 12:00 ~ 熊原康博 インド・パンジャブ州におけるヒマラヤ前縁の活断層地形
[休憩]
- 13:45 ~ 山岡拓也 後期旧石器時代前半期における石器素材利用形態の変遷過程
- 14:00 ~ 小野 昭 中部ヨーロッパの更新世—完新世移行期におけるヒト—環境系の相関
- 14:15 ~ 窪田順平 中央ユーラシア乾燥地域における人間と環境との相互作用の歴史的変遷—学際的研究による統合的アプローチ
- 14:30 ~ 原口 強ほか バルハシ盆地の地形発達に関する予察的検討
- 14:45 ~ 須貝俊彦ほか 完新世におけるカザフスタン、レプシ川の地形と古水文環境変化
- 15:00 ~ 遠藤邦彦 バルハシ湖とアラル海の湖底堆積物と湖水位変動・環境変動— Big Event はあったのか—
- [休憩]
- 15:30 ~ 青木 拓ほか 東京都三鷹市井の頭公園地下における前期更新世テフクロノロジー
- 15:45 ~ 植木岳雪ほか 新潟県中越地域の鮮新—更新統魚沼層群の古地磁気層序
- 16:00 ~ 百原 新ほか 前期更新世の気候変動に伴う新潟堆積盆地周辺のプロラ組成の変化
- 16:15 ~ 槻木玲美ほか 八幡平湖沼のプランクトン長期動態とその変動要因：高山湖沼で何が起きているか？
- 16:30 ~ 池田 敦ほか 赤石山脈における晩氷期の永久凍土環境を示す証拠
- 16:45 ~ 小荒井 衛 地形分類・地形発達に関連した地理空間情報を活用した早期災害想定 of 検討

セッション H-QR010 『ヒト—環境系の時系列ダイナミクス』ポスターセッション

5月26日(水) 幕張メッセ国際会議場コンベンションホール (コアタイム 17:15 ~ 18:45)

- 1 下岡順直ほか 光ルミネッセンス (OSL) 法を用いたインダス文明に関連するインド・ガッガル川流域砂丘の形成年代
- 2 窪田 薫ほか ナマズの耳石の酸素同位体比から復元された中期完新世の環境とインダス文明との関係
- 3 中村俊夫ほか シリアのユーフラテス河中流域ビシュリ山系における遺跡群の年代と人の移動
- 4 奈良間千之ほか 中央アジアにおける過去 1000 年間の環境変動
- 5 千葉 崇ほか 珪藻遺骸群集から推定される中央アジアバルハシ湖の湖水位変動とその要因
- 6 清水 整ほか カザフスタン・バルハシ湖流入諸河川の蛇行流路特性の検討と蛇行流路から導かれるイリ川の流量変化と環境変動
- 7 渡邊三津子 カザフスタン共和国アルマトゥ州における牧畜業と資源利用の変遷
- 8 南雲直子ほか カンボジア中央部セン川下流部におけるプレアンコール期王都と地形環境
- 9 山本隆太ほか ドイツ北東部オーダーブルッフの最終氷期以降の地形変遷
- 10 近藤玲介ほか 北海道北部利尻島姫沼において採取されたボーリングコアの岩相と年代
- 11 江連靖英ほか 宇宙線生成核種露出年代測定法を用いた木曾駒ヶ岳周辺における化石周氷河性平滑斜面の形成年代の推定
- 12 高田将志ほか 琵琶湖とその周辺域に分布する石英粒子の ESR/TL 信号特性
- 13 林崎 涼ほか 新潟県海岸部における砂粒子の運搬過程—長石の露光率を用いて—
- 14 Fernando F. A. et. al. Tephrostratigraphy in the late Quaternary sediments of the eastern margin of Japan Sea
- 15 鈴木毅彦ほか 関東平野北東部水戸地域で検出された箱根 T_{Au11} テフラと MIS5/6 の海面変化
- 16 鈴木毅彦ほか 東京国際 (羽田) 空港 D 滑走路地域地下から検出された前期更新世に噴出した恵比須峠—福田テフラと穂高— Kd39 テフラとその意義
- 17 村田昌則ほか 銚子地域犬吠層群小浜層中の前期更新世テフラとの対比に基づく白河火砕流堆積物群の層序の再検討
- 18 秋山瑛子ほか 東京湾域の上総層群上部における有孔虫・花粉化石に基づく環境変遷

- 19 西内李佳ほか 関東平野における完新世初期の照葉樹林の進出・拡大
20 松島紘子ほか 海成層および海成段丘の分布に基づいた関東平野における中期更新世以降の海岸線の復元
21 佐々木優太ほか 愛媛県宇和盆地埋積層分析による過去約 60 万年間の古環境復元
22 吾妻 崇 全国主要活断層帯調査において得られた炭素同位体年代に基づく古環境の地域比較
23 佐々木俊法ほか 雄物川流域の段丘分布からみた出羽丘陵の第四紀後期地殻変動
24 井内美郎ほか 野尻湖音波探査記録の反射面とテフラとの対応
25 佐藤善輝ほか 浜名湖南東岸の六間川低地における完新世後期の堆積環境変化
26 三枝芳江ほか 濃尾平野での完新世の古環境復元における TOC, TN, TS の有用性の検討
27 若林 徹ほか 濃尾平野完新統の分析に基づく重金属の過去 1 万年間の地理的分布の変遷
28 岩本直哉ほか 湯ノ湖の珪藻種組成変化からみた浚渫による環境変化

セッション H-QR011 『沖積層研究の新展開』 オーラルセッション

5月28日(金) 9:00～12:15 幕張メッセ展示ホール7別室3

- 9:00～ 嵯峨山 積ほか 北海道石狩平野の上部更新統～完新統の地質学的検討
9:15～ 川上源太郎ほか 北海道当別町太美地区で掘削された沖積層ボーリングコア (GS-HTF) の解析
9:30～ 七山 太 北海道東部沿岸地域に認められる完新世バリアシステムの特異性
9:45～ 宮地良典ほか 新潟平野沿岸部のボーリング試料から見た沖積層の地質構造
10:00～ ト部厚志ほか 新潟市竹野町地域の沖積層に記録された越後平野西縁断層の変位
10:15～ 稲崎富士ほか 高分解能ランドストリーマー反射法探査による角田-弥彦断層による沖積層の変形構造イメージング

[休憩]

- 10:45～ 木村克己 新潟地域のボーリングデータベースと沖積層モデル
11:00～ 池原 研ほか 新潟沖陸棚の後期第四紀層序と堆積作用
11:15～ 天野敦子ほか 新潟県越後平野沿岸海域の沖積層からみた堆積環境変遷
11:30～ 竹村貴人ほか 沖積粘性土の動土質特性の堆積環境依存性に関する実験的研究
11:45～ 大上隆史ほか 粒度組成と堆積速度の特徴からみた濃尾平野沖積層の堆積過程
12:00～ 北田奈緒子ほか 大阪平野の沖積層の堆積環境-水の化学組成から考える

セッション H-QR011 『沖積層研究の新展開』 ポスターセッション

5月27日(木) 幕張メッセ国際会議場コンベンションホール(コアタイム 17:15～18:45)

- 1 重野聖之ほか 海道東部厚岸湾沿岸地域の完新世バリアシステムの復元
- 2 石原武志ほか 荒川低地中・上流域および妻沼低地における沖積層とその基底地形
- 3 石原与四郎ほか 荒川低地における沖積層の3次元地質・地盤モデル
- 4 小松原純子ほか 既存ボーリングデータに基づいた荒川下流(埼玉県戸田市-東京都江東区)の沖積層断面図
- 5 井上卓彦ほか 新潟平野沖合海域に分布する沖積層の特徴
- 6 船引彩子ほか 完新世における三重県雲出川デルタの発達過程
- 7 江藤稚佳子ほか S波速度検層データと地盤特性に基づく AVS30 の推定(その2)

セッション S-SS017 『活断層と古地震』 オーラルセッション

5月26日(水) 9:00～15:15 幕張メッセ展示ホール7別室1

- 9:00～ 都司嘉宣ほか 安政南海地震(1854)による土佐国の死者分布
9:15～ 村岸 純 渥美半島における1707年宝永地震後の社会的影響
9:30～ 早川由紀夫 平安時代に起こった八ヶ岳崩壊と千曲川洪水
9:45～ 高木秀雄ほか 跡津川断層沿いのシュードタキライトのフィッシュトラック年代
10:00～ 小林健太 断層活動性の評価に向けた断層ガウジの色測定-鳥取および新潟地域における基礎研究-
10:15～ 大谷具幸ほか 基盤岩に発達する断層破碎帯中のマンガン鉱物に着目した活動性評価の試み

[休憩]

- 10:45～ 今西和俊ほか 微小地震観測により明らかになった糸魚川-静岡構造線活断層系の現

- 在の応力場
- 11:00 ~ 桑原保人ほか 地震時の地表断層変位への地殻応力場の影響—動的破壊伝播の数値実験による考察—
- 11:15 ~ 安藤広一ほか コンピュータシミュレーションを用いた断層撓曲と断層パラメータの解明
- 11:30 ~ 小坂英輝 北上低地西縁断層帯・南昌山断層群の鮮新世以降の地表変形
- 11:45 ~ 今泉俊文ほか 奥羽脊梁山地東麓の変動地形とセグメント区分
- 12:00 ~ 小松原 琢 新潟県加茂市周辺の活断層
[休憩]
- 13:45 ~ 稲崎富士 ランドストリーマー高分解能反射法探査で検出された荒川下流部（北区北赤羽）の浅部変形構造
- 14:00 ~ 末岡 茂ほか 熱年代学的手法に基づいた断層地塊山地の隆起・削剥過程の解明：木曾山脈を例として
- 14:15 ~ 阿部信太郎ほか 菊川断層および西山断層海域延長部における海底活断層調査の概要
- 14:30 ~ 奥村晃史 Gerede 東方 Ardicli 地点における北アナトリア断層 1944 年断層の過去の地震発生時期と変位量の解明
- 14:45 ~ Zhikun Ren et. al. Late Quaternary activity of the Zemuhe Fault, southeastern margin of the Tibetan Plateau
- 15:00 ~ 呉長江 地震ハザード評価における特定震源の地震発生モデルに関する研究：BPT モデルの再考察

セッション S-SS017 『活断層と古地震』ポスターセッション

5月25日(火) 幕張メッセ国際会議場コンベンションホール (コアタイム 17:15 ~ 18:45)

- 1 楮原京子ほか 反射法地震探査からみた北上低地西縁断層帯北部・南昌山断層群の地下構造
- 2 田力正好ほか ALOS 衛星画像を用いた奥羽脊梁山脈東麓の変動地形判読：顕著な活断層が分布しない地域における内陸地震の可能性
- 3 水本匡起ほか 福島盆地西縁断層帯、飯坂付近の断層トレースと不連続部の可能性
- 4 吾妻 崇ほか 横手盆地東縁断層帯（南部）の活動履歴と地下構造
- 5 石井 寿ほか 天保四年山形沖地震津波の調査
- 6 小形祐美ほか 日本海東縁、飛鳥の海成段丘の変位をもたらす地震性地殻変動
- 7 遠藤香織ほか 1804 年象潟地震の震源断層—離水海岸地形からの再検討—
- 8 宮内崇裕ほか 佐渡海嶺、小佐度丘陵・佐渡小木半島の地震性隆起プロセス—海成段丘と断層モデルによる解析から—
- 9 田中麻衣ほか 長岡平野西縁断層帯、鳥越断層群と片貝断層群の断層岩解析
- 10 丸山 正ほか 糸静線活断層系北部、神城断層・松本盆地東縁断層の完新世活動履歴
- 11 木口 努ほか 掘削直後の孔径変化測定による松本盆地東縁断層周辺の浅部応力方位測定
- 12 Akira Takeuchi et. al., ESR dating of Calcareous fault gouge of the Ushikubi fault, central Japan
- 13 上田圭一ほか 濃尾地震断層系・温見断層中央部における断層構造（予察）
- 14 佐々木俊法ほか 濃尾地震断層系・温見断層中央部における断層変位地形と断層露頭
- 15 金田平太郎ほか トレンチ調査による濃尾断層帯、揖斐川断層および武儀川断層の活動履歴
- 16 杵名亮輔ほか 根尾谷断層破碎帯における断層ガウジの物質移動特性
- 17 鳴橋竜太郎ほか 電気伝導度・初磁化率・粒度組成分析の浅海底逆断層のイベント指標としての有効性—桑名断層を例にして—
- 18 丹羽雄一ほか 濃尾平野完新統に残された堆積環境変化と養老断層系の活動
- 19 宮下由香里ほか 山口県岩国断層帯南西延長海域の音波探査
- 20 伊藤弘志ほか 山口県菊川断層帯の海域延長部
- 21 Weerachat Wiwegwin et. al., Reevaluation of the Thoen fault activity along the southeastern margin of the Lampang basin, northern Thailand
- 22 金田平太郎ほか LiDAR DEM を用いた流域地形解析に基づく横ずれ活断層の活動度評価
- 23 小俣雅志ほか ^{14}C 年代測定における測定物質による系統的年代ギャップが古地震調査に与える影響
- 24 平井 彰ほか 完新世隆起石灰岩によるプレート境界型地震履歴の復元

◆日本第四紀学会 2009 年度第 1 回学会賞・学術賞受賞者講演会報告

日本第四紀学会 2009 年度第 1 回学会賞・学術賞受賞者講演会は、早稲田大学早稲田キャンパス 22 号館にて、2010 年 1 月 31 日（日）に開催された。当日は講演を聴こうと多くの人々が来場され（160 名以上）、会場は熱気に包まれた。講演者は学術賞を受賞された独立行政法人産業技術総合研究所の斎藤文紀先生と、学会賞を受賞された東京都立大学名誉教授の町田 洋先生であった。

斎藤先生は「陸と海の境界域における堆積作用と環境変遷に関する研究」と題して、ご自身がこれまで行ってきた研究内容とその成果、今後の展望も含めて講演された。講演では、最初に 1980 年代からの堆積学研究の流れを説明され、1980 年代の堆積相解析と 1990 年代のシーケンス層序学が 2000 年代に統合し、数値シミュレーションが行われるようになった結果、堆積に関する研究がさらに進展した事などをわかりやすく解説して頂いた。さらにご自身の論文や海外の論文などを多数引用しながら、ご自身の成果である臨海域での堆積モデルなども紹介していただいた。私はカンボジアを研究対象地域としていることもあって、1992 年から行われているというアジアのデルタ調査の話は特に興味深く聞かせて頂いた。今後はインドでの調査も予定されているとの事で、どんなことが明らかになってくるのか大変楽しみである。今回は受賞者講演という形ではあったが、研究の第一線で活躍する先生の話とその研究史も含めて聞くことができ、さらに堆積学や環境変遷に関する多くの文献も紹介して頂いて大変勉強になった。

（東京大学大学院新領域創成科学研究科 博士課程 南雲直子）



町田 洋前会長（左）・斎藤文紀会員（右）

学術賞受賞者の斎藤文紀先生の講演に続き、学会賞を受賞された日本第四紀学会前会長の町田 洋先生による講演が行われた。講演タイトルは、「日本列島と周辺域のテフラを基礎とした第四紀編年：回顧と展望」で、町田先生の院生時代からこれまでに組み込まれてこられた研究の内容、研究の契機となった逸話など、また第四紀学研究の社会への浸透に対する展望までも講演いただいた。町田先生は東京大学の院生時代に当時の地理学や地形学の研究の学風に疑問を感じつつ、富士山などの山地斜面と谷の侵食をテーマに研究を始められた。そこでテフラと出会い、次第にその研究の対象範囲を富士山・箱根火山から関東平野全体へと広げていき、テフロクロノジーを基礎としてその発達史をまとめられた。町田先生が詳しく研究された始良 Tn テフラをはじめとする広域テフラは、今や調査研究の目が海底堆積物にまで向けられ、海洋同位体編年と陸上の編年とを結ぶ重要な役割を担っている。

私は箱根火山カルデラ内部の地形発達を研究していることもあり、テフラによって箱根火山の発達史に年代軸を組み込まれた町田先生の講演を大変興味深く聴かせていただいた。特に、町田先生のようなお方でも同じ露頭にもう何十回も通って調査されたというお話は、私の胸にとっても響くものであった。さらに、貝塚先生や新井先生との出会いの話や、テフロクロノジーの考古学への応用の際の考古学者との議論などの話も聞かせていただき、第四紀研究の他分野への応用とその成果を知り、第四紀学が幅広い分野にわたる学際的な学問であることを改めて認識することができた。

時間の制約上、町田先生は途中、始良 Tn テフラ以外の広域テフラにまつわる逸話などを割愛され、私にとっては非常に残念であったが、最近取り組まれているという第四紀学の社会への普及活動などの話を含めて、また別の機会にぜひ詳しくお話を聴かせていただきたいと思う。

（首都大学東京大学院都市環境科学研究科 博士前期課程 青山朋史）

◆2009年度日本第四紀学会学会賞・学術賞受賞者講演会（第2回）のお知らせ

日本第四紀学会では、第四紀学の発展に貢献し顕著な業績をあげ、また学会活動に貢献した会員に授与される「学会賞」と、第四紀学に貢献した優れた学術業績をあげた会員に授与される「学術賞」を設け、大会時に受賞者を発表し、第四紀通信でご紹介しています。

本年1月の2009年度受賞者による第1回講演会に続き、第2回講演会を下記のとおり開催します。参加無料、事前申込不要です。会員・非会員を問わず、多数のご来場をお待ちしております。

なお、当日午後は同じ会場にて日本第四紀学会主催の地学教育に関するシンポジウムが開催されます。あわせてご参加ください。

2009年度日本第四紀学会学会賞・学術賞受賞者講演会（第2回）

- ・日時：2010年6月19日（土）10:00～11:30
- ・会場：早稲田大学本部キャンパス（会場の詳細は4月以降に決定の上、日本第四紀学会ホームページ等でお知らせします）
（JR山手線高田馬場駅前より学バス「早大正門」行き、または東京メトロ東西線早稲田駅下車）
<http://www.waseda.jp/jp/campus/map.pdf>

- ・プログラム
- 10:00-10:05 あいさつ
- 10:05-10:45
小疇 尚会員（学術賞受賞者）
「山岳地域・極地における氷河・周氷河地形に関する研究」
- 10:45-11:25
小野 昭会員（学会賞受賞者）
「旧石器時代の人類活動と自然環境」

問い合わせ：日本第四紀学会事務局（最終ページ参照）

なお、同日午後、同会場において日本第四紀学会主催の地学教育に関するシンポジウムを開催します。詳細は本誌12ページをご覧ください。

◆日本第四紀学会シンポジウム報告

2010年1月31日（日）午後、早稲田大学22号館202教室にて日本第四紀学会主催シンポジウム「第四紀の開始期の環境変動とテクトニクス：第四紀の新定義を検証する」が開催されました。このシンポジウムは2009年6月に「第四紀」の定義が変更され、従来は鮮新世に区分されていたGela期／階（Gelasian）が第四紀に含まれることになったことにより、その背景と新しい第四紀下限付近の時期のトピックについて広く知っていただくことを目的にしたものです。当日は約170名の参加があり、会場は熱気に包まれ、外の寒さも忘れるようでした。特に、約60名の非会員の参加があったことは大変嬉しいことで、第四紀の新しい定義についての関心の高さがうかがわれます。今後のシンポジウムでも、他の学会や報道などを通して非会員への広報に力を入れ、ひいては会員の増加に結びつけたいと思います。

当日のプログラムは以下の通りです。

- 14:40-15:00 趣旨説明、特に第四紀下限の変更について（奥村晃史）
- 15:00-15:25 第四紀始まりの世界的な気候寒冷化とは何か：酸素同位体比変動から（大場忠道）
- 15:25-15:55 パナマ地峡の成立と世界的な気候寒冷化の影響：秋田と沖縄を例として（佐藤時幸）

- 15:55-16:15 人類最初の出アフリカ (Out of Africa) と東方アジアへの拡散問題 (松浦秀治)
 16:25-16:45 植物化石群の変遷からみた第四紀の重要層準：気候変動との関連で (百原 新)
 16:45-17:05 哺乳動物化石群の変遷からみた陸橋の形成時期 (樽野博幸)
 17:05-17:25 鮮新-前期更新世の広域テフラ層による時間指標層としての確度と分解能 (里口保文)
 17:25-17:45 西南日本における鮮新-更新世内陸盆地発達史の再検討 (水野清秀)
 17:45-18:00 総合討論

総合討論では、町田 洋前会長、熊井久雄元会長によって第四紀の細分とその境界の設定について議論されました。新しい第四紀下限付近のトピックは、特に中期更新世以降のテーマを扱っている会員の方には、あまりなじみがないものだと思います。これらの講演の内容は夏ごろに第四紀研究誌上にまとめられる予定ですので、今後の第四紀の研究の幅を広げるためにご一読いただければ幸いです。(植木岳雪)

◆日本第四紀学会 地学教育に関するシンポジウム案内

趣旨：持続的発展可能で安心・安全な社会の構築のためには、将来を担う児童・生徒の科学リテラシーの向上が必要不可欠です。平成24年度から高校理科が3科目必修となる一方で、現在の地学の履修率は低く、地学専門の教員も激減しています。このような危機的な状況の中で、地学を教科として存続させ、履修率を上げるためには、学会が積極的に教育現場に働きかける必要があります。

本シンポジウムでは、3つの教育系の学会と共同で学校の教科教育としての地学教育、理科教育、科学教育の現状と課題を整理し、学校現場と学会の連携を図るための方向性を議論します。なお、本年8月の日本第四紀学会大会では、生涯教育としての自然史教育をテーマとしたシンポジウムを開催する予定です。

- ・日 時：2010年6月19日(土) 13:00～18:00(予定)
- ・会 場：早稲田大学本部キャンパス(会場の詳細は4月以降に決定の上、日本第四紀学会ホームページ等でお知らせします)
 (JR山手線高田馬場駅前より学バス「早大正門」行き、または東京メトロ東西線早稲田駅下車)
<http://www.waseda.jp/jp/campus/map.pdf>

本シンポジウムは日本地学教育学会、日本理科教育学会、日本科学教育学会と共催の予定です。

同日午前、同会場において日本第四紀学会主催の学会賞・学術賞受賞者講演会を開催します。詳細は本誌11ページをご覧ください。

◆2009年度第2回評議員会議事録

日 時：2010年1月31日(日) 11:00～12:30
 場 所：早稲田大学22号館203教室
 議 長：宮内崇裕
 出 席：遠藤邦彦(会長)、小野 昭、竹村恵二(副会長・評議員)、吾妻 崇、池田明彦、池原 研、石橋克彦、出穂雅実、井内美郎、岡崎浩子、奥村晃史、荻谷愛彦、久保純子、公文富士夫、斎藤文紀、佐藤宏之、里口保文、須貝俊彦、辻誠一郎、陶野郁雄、中村俊夫、八戸昭一、兵頭政幸、松浦秀治、松下まり子、松島義章、水野清

秀、三田村宗樹、宮内崇裕、百原 新、山崎晴雄、米田 穰、渡邊真紀子(以上、評議員)、町田洋、熊井久雄(歴代会長)、植木岳雪、高田将志、長橋良隆(幹事)、中野(事務局)

久保行事幹事の司会で、遠藤会長挨拶に続き、宮内崇裕評議員が議長に選出され、定足数確認の後、以下の報告と審議が行われた。

- I. 報告事項
 1. 2009年度事業中間報告
 - 1-1 庶務(吾妻幹事)

- (1) 会員動向 (2009年12月31日現在) 正会員1439名(うち、学生会員34名、海外会員12名を含む)、名誉会員9名、賛助会員11社、総計1459。(逝去会員)羽鳥謙三(2009年9月2日)。
- (2) 2009年度第1回評議員会を2009年8月28日に滋賀県立琵琶湖博物館において開催した。議長：竹村恵二。2009年度総会を2009年8月29日に滋賀県立琵琶湖博物館で開催した。議長：兵頭政幸。これらの詳細について、議事録として第四紀通信第16巻5号に掲載した。
- (3) 2009年度幹事会を行った。第1回(8月28日)、第2回(10月11日)、第3回(12月5日)、第4回(1月31日)。第3回までの議事録を第四紀通信に掲載した。
- (4) 転載許可の受付、会員名簿整理を行った。
- (5) 副会長および幹事の補充選挙を行った。選挙の結果、副会長に竹村恵二、幹事に渡邊眞紀子の両氏が選出された。
- (6) 2010年日本第四紀学会賞および学術賞選考に向けて、学会賞受賞者選考委員の選挙を行った。遠藤会長から推薦された11名の候補者に対して、評議員による選挙を行った結果、小池裕子、公文富士夫、中村俊夫、兵頭政幸、山崎晴雄の5名が選出された。また、会員に向け、候補者の推薦を依頼中である。
- (7) 2010年日本第四紀学会論文賞および奨励賞選考に向けて、論文賞受賞者選考委員の選挙を行った。遠藤会長から推薦された13名の候補者に対して、評議員による選挙を行った結果、岡崎浩子、北村晃寿、鈴木毅彦、高橋啓一、三田村宗樹の5名が選出された。また会員に向け候補者の推薦を依頼中である。
- (8) 第四紀の開始年代の新定義に関する日本学術会議のシンポジウム(2010年1月22日)に協力するとともに、日本学術会議 IUGS 分科会、同 INQUA 分科会、日本地質学会との連名でその主旨に関する記者説明会(1月20日)を開催した。
- (9) 地球温暖化問題を検討する研究委員会主催のシンポジウム「生物多様性からみた地球温暖化」を12月19日(土)にGCOE「自然共生社会を拓くアジア保全生態学」との共催で九州大学21世紀プラザにおいて開催した。
- (10) 学会・シンポジウム・特別展・講演会の共催・後援：第53回粘土科学討論会2009年9月10日～11日<共催>、北淡活断層国際シンポジウム2010<後援>
- (11) 「デジタルブック最新第四紀学」の会員価格での注文受付を12月より開始した。

1-2 編集(池原幹事)

- (1) 第四紀研究第48巻5号(論説4編、書評1編、62頁)、6号(学会賞記念論文1編、論説4編、書評1編、63頁+総目次)を刊行した。第48巻の総頁は429頁。第49巻1号は学会賞記念論文1編、論説2編、短報1編、書評1編で編集済、2月1日刊行予定。
- (2) 2009年8月の滋賀大会シンポジウム特集号編集委員会を設置した。49巻3号(2006年6月

刊行)を特集号にあてる予定で編集を進めている。

(3) 48巻3号で著者英文所属と連絡先に印刷ミスがあった。著者にお詫びするとともに5号に訂正を掲載した。

(4) 執筆要項につき、講演要旨集についても雑誌と同様に号表記されるべきものについては、no.を入れることに修正した。

(5) 49巻1号より雑誌の体裁について以下の変更を行った。

1) 英文要旨をつけない原稿についても、論文題名、著者名、キーワードの英語表記を英文要旨のある原稿と同様に載せる。

2) 偶数ページの柱を発行年月の英語表記から、雑誌名と巻号に変更する。また、日本語論文は柱もすべて日本語に、英語論文は英語にする。

3) 表紙の論文区分と著者名の英語表記を太字にする。

(6) 編集委員の追加：大串健一会員

1-3 行事(久保幹事)

(1) 2009年8月28日(金)～8月30日(日)に滋賀県立琵琶湖博物館において日本第四紀学会2009年大会を開催した。一般研究発表は、28日と29日の2日間で、30日にはシンポジウム「古環境変動へ貢献する湖沼堆積物研究の役割」が行われた。大会参加者数は、3日間を通して、合計217名(会員157名、非会員60名)であった。このほか、28日に評議員会、29日に総会と懇親会が開催され、31日には「琵琶湖西岸地域の地形・地質、そしてその影響」と題する巡検が行われた。詳細は「第四紀通信」16巻5号に掲載されている。

(2) 2010年1月31日(日)に早稲田大学にて2009年度第2回評議員会、ならびに学会賞・学術賞受賞者講演会(第1回)を開催の予定である。講演会では斎藤文紀会員(学術賞受賞者)と町田洋前会長(学会賞受賞者)の講演を予定している。

(3) 2010年6月19日(土)に2009年度第3回評議員会、ならびに2009年度学会賞・学術賞受賞者による講演会(第2回)を開催の予定である。講演会では小疇尚会員(学術賞受賞者)と小野昭副会長(学会賞受賞者)の講演を予定している。

(4) 2010年8月20日(金)～8月22日(日)に東京学芸大学で日本第四紀学会2010年大会を開催する予定である。8月20日(金)・21日(土)に一般研究発表・評議員会・総会・懇親会、22日(日)にシンポジウムと講演会(学会賞・学術賞受賞者)、23日(月)に巡検(高尾山)を予定している。実行委員長は東京学芸大学の小泉武栄会員で、シンポジウムでは「自然史研究の推進」を中心とするテーマを検討中である。なお、2010年度より学会賞・学術賞受賞者の講演(の一部)を大会時に行う予定である。

(5) 2011年以降の大会開催地については検討中である。

1-4 広報(荻谷幹事)

(1) 「第四紀通信」16巻5号(2009年10月)と16巻6号(2009年12月)を発行し、会員に郵

送した。同 17 巻 1 号 (2010 年 2 月発送予定) の編集と印刷を行った。各号の電子版 (pdf 形式) については、郵送の前月中旬に本会ホームページに掲載した。

(2) 日本第四紀学会ホームページを通じて広報活動を行った。主なものは、1) 各種イベント (学会主催・共催の講演会やシンポジウム等) の案内、2) 研究委員会関連の集会・巡検案内、3) 本会 2010 年大会案内、4) 日本地球惑星科学連合 2010 年大会案内、5) 「第四紀」定義問題、6) だいやんき Q&A、7) 「第四紀研究」目次掲載である。

(3) 会員メーリングリストを通じて、シンポジウム、研究集会、公募等の広報活動を行った。2009 年 9 月 1 日～2010 年 1 月 20 日の投稿数は 41 件である。

(4) 評議員会メーリングリストを運用して情報交換等を行った。

1-5 渉外 (須貝幹事)

(1) 一般社団法人日本地球惑星科学連合：法人化後初の代議員選挙実施。投票締切り 10 月 30 日。開票 11 月 6 日。以下 15 名の第四紀学会会員当選。大気海洋・環境科学：多田隆治、中塚 武。地球人間圏科学：小口 高、奥村晃史、須貝俊彦、鈴木毅彦、春山成子、松本 淳、目代邦康。固体地球科学：伊藤谷生。地球生命科学：井龍康文、川幡穂高、北村晃寿。地球惑星科学総合：小松美加、中井睦美。10 月末日締切で、2010 年大会セッションの提案がなされた。第四紀セッションは、地球人間圏科学セクションになった。「第四紀」セッションを引継ぐ「ヒト-環境系の時系列ダイナミクス」を提案した。「活断層・古地震」他は従来どおり。詳細は連合大会 HP (<http://www.jpogu.org/meeting/>) 参照。

(2) 自然史学会連合：平成 21 年度の連合の講演会「未来に残したい日本海域の自然史遺産」が 2009 年 11 月 7、8 日に石川県立自然史資料館で開催された。ロレックス助成金により立派なパンフレット作成。2009 年 12 月 19 日に国立科学博物館分館で 2009 年度総会が開催された。新役員が選出され、西田会長は留任。「2009 年 11 月 16 日地方分権改革推進委員会第 3 次勧告の博物館見直しに対する反対声明」に関する経緯に関する説明と意見交換がなされた。講演会の開催、ロレックス・インスティテュートが行うロレックス賞 (<http://www.rolexawards.jp>) への応募の呼びかけにつづいて、2008 年度決算、2009 年度会計経過報告、2010 年度予算案と事業計画について審議承認された [須貝俊彦出席]。

(3) 「地質の日」事業推進委員会：第 3 回「地質の日」事業推進委員会が 10 月 20 日に日本地質学会事務局で開催された。本年の事業推進委員会の活動のまとめがなされた。地質ニュース 2009 年 1-2 月号において、2008 年地質の日事業の報告を特集号として出版した。2 月 25 日の全国科学博物館協議会において、資料を配付した。4 月 27 日に文科省記者クラブへ「地質の日」プレス発表の投げ込みをした。科学雑誌 Newton 誌 2009 年

6 月号の information 欄に「地質の日」の開催情報を掲載した。文科省より各県教育委員会へ、「地質の日」への協力依頼する文書を作成した。2009 年度の「地質の日」関連事業として、全国 60 の機関・団体で 98 のイベントが開催された。イベントへの参加者数合計 (8 機関からは未報告) は 260,433 人となった。会計報告がなされた。

(4) PAGES-J 国内委員会：環境学委員会・地球惑星科学委員会 IGBP・WCRP 合同分科会 PAGES 小委員会 (第 21 期・第 1 回) が平成 22 年 1 月 9 日東京大学海洋研究所で開催された。役員の選出につづき、国内外の PAGES 関連分野の最近の動きの報告がなされた。第四紀学会の取り組みとして INQUA の日本への招致 (2015 年を予定)。PAGES との連携が重要になってくる点を報告した。PAGES SSC 会議の報告 (中塚) 2009 年 7 月 12～13 日、米国オレゴン州立大学にて開催。6 月名古屋大で PAGES Regional WS の開催。別途 Asian 2K WS を 8 月末か 9 月に開催予定。地球惑星科学連合大会への対応 (5 月の大会におけるセッションの連携など) について意見交換した。レギュラーセッションの今後はどうなっていくのか、各カテゴリー (大気海洋、地球人間圏、地球生命) に振り分けられ、その垣根を越えて連続開催をしてもらえるのか議論がなされた [須貝俊彦オブザーバ出席]

(5) 第四紀の新定義に関わる 1.22 シンポジウムに先立ち、記者レクを 1 月 20 日に文科省で行った。地球惑星科学委員会 IUGS 分科会、地質学会、第四紀学会から出席。記者 6 名 [須貝代理出席]

1-6 企画 (植木幹事)

(1) 学会主催のシンポジウム「第四紀の開始期の環境変動とテクトニクス：第四紀の新定義を検証する」を、2010 年 1 月 31 日午後、早稲田大学 22 号館にて開催する予定である。

(2) 学会主催の講習会「地形と地層を見る目を実験で磨こう」を、2010 年 3 月 8 日午後、東京学芸大学・環境教育実践施設にて開催する予定である。講師は元筑波大学陸域環境研究センターの池田 宏氏、世話人は東京学芸大学の小泉武栄氏。

(3) 地学教育を主とする教科教育に関する学会主催のシンポジウムを 2010 年 6 月 19 日 (土) 午後開催予定である。日本地学教育学会、日本理科教育学会、日本科学教育学会。

2. 2009 年度会計中間報告 (佐藤幹事)

資料 1 (省略) に基づき、2009 年 12 月 31 日現在での収支会計中間報告が行われ、予算がほぼ予定どおり執行されている旨説明があった。

3. 役員選挙結果報告 (百原幹事長)

副会長 1 名、幹事 1 名の補充選挙を行い、副会長に竹村恵二、幹事に渡邊眞紀子を選出された (詳細は通信 Vol 16, no.6 に報告済み)。

4. 日本学術会議 地球惑星科学委員会 INQUA 分科会報告 (奥村評議員)

(1) 第 21 期第 3 回 INQUA 分科会

日時：2009年12月9日13:00～15:40
 場所：日本地質学会事務局
 出席者 INQUA分科会：田村俊和、渡邊真紀子、
 奥村晃史、鈴木毅彦
 オブザーバー INQUA国内委員：町田 洋、小野
 昭、斎藤文紀、太田陽子、遠藤邦彦
 IUGS分科会：北里 洋、斎藤靖二、西脇二一
 日本地質学会：天野一男、井龍康文
 日本第四紀学会：吾妻 崇
 議題1. 前回議事録(案)の確認
 議題2. 第四紀の新しい定義について
 資料2のような第四紀の新しい地位と定義、およ
 び関連する地質時代の呼称等を日本で用いること
 を同意した。今後地球惑星科学研究者、応用地質
 実務者、教育関係者等から幅広く意見を求めて日
 本学術会議の報告をとりまとめ、普及と広報につ
 とめることとした。
 (2) 日本学術会議公開シンポジウム『人類の時代
 -第四紀は残った』
 日本学術会議 IUGS分科会・INQUA分科会・日本
 地質学会・日本第四紀学会 共催
 日時：1月22日(金)10時～17時15分
 場所：日本学術会議講堂
 新しい第四紀の地位と定義を確認し、日本への受
 容と普及を図るための公開シンポジウムを開催し
 た。参加者は150名余りで活発な議論が行われた。

5. 第四紀の新定義について(遠藤会長)

2009年12月29日に開催された日本学術会議
 INQUA分科会での検討結果を受けて、資料2(省
 略)の内容について日本学術会議 IUGS分科会、
 同 INQUA分科会、日本地質学会と共同で発表した。

II. 審議事項

1. 会長推薦幹事の承認について

2009年度第1回評議員会で承認された会長推
 薦幹事補充提案を受け、会長より推薦された高田
 将志会員、三田村宗樹会員の2名を幹事に任命す
 ることが承認された。

2. 名誉会員候補者選考委員会の設置について

2009年度は名誉会員候補者選考委員会を設置
 する年度にあっている。名誉会員候補者選考規
 定に従い、名誉会員候補者選考委員会を設置し、
 大場忠道、斎藤文紀、陶野郁雄の3名を名誉会員
 選考委員に任命することが承認された。

3. 法務委員会常任委員の承認について

法務委員会規定第2条に従い、会長から推薦さ
 れた岩田修二、坂上寛一、諏訪間順、松下まり子、
 水野清秀の5名を法務委員会常任委員に任命す
 ることが承認された。

4. 法務委員会規定の改訂について

2009年度第1回評議員会において法務委員会
 設置提案がなされ法務委員会規定が承認されたが、
 2009年総会において会員より出された意見を踏
 まえ、人権の保護を十分配慮した改訂案が提示さ
 れ、承認された。主な修正点は下記のとおりである。

人権尊重に関連して、第3条として「関係者の
 人権の尊重」を、第12条として裁定と措置を公

表した後、不正行為等が存在しなかったことが確
 認された場合の「被申し立て者の名誉回復措置」
 を加えた。第9条5項に不正行為等がなかったと
 する裁定結果を申し立て者ならびに被申し立て者
 に通知する旨の文言を加えた。事務局についての
 記載が不明確だったので、法務委員会事務局員を
 法務担当副会長1名、法務担当幹事1名とし(第
 2条の2)、書類の送付先としての事務局を第四紀
 学会事務局におくこととした(附則1)。その他、
 「被申し立て人」、「措置」等の文言の修正。(改訂
 法務委員会規定条文は第四紀通信次号(17巻3号)
 に掲載予定)

5. 評議員選挙の方法について

評議員の選挙方法ならびに定数について検討を
 行うことについて、その方法と検討期間について
 議論した。その結果、今後は検討委員会の設置も
 視野に入れ、2013年度に行われる選挙に向けて
 対応を検討することとした。

6. 長期会費滞納者の除籍について

4年間以上にわたり会費納入を滞納している者
 について、最後の納入依頼を送付してなお会費納
 入がなされない場合には除籍とすることが承認さ
 れた。

III. その他

1. 学会賞・学術賞候補者、論文賞・奨励賞候補論 文の評議員からの推薦について(依頼)

選考委員の専門分野にとどまらない、より広範囲
 の専門分野の候補者および候補論文からの選考を
 行いたいので、第四紀通信第17巻1号ではメー
 ル添付での推薦文の送付も可能にして会員に推薦
 を呼びかけているが、評議員から積極的に推薦し
 て頂けるよう依頼した。

◆日本第四紀学会第4回幹事会議事録

日時：2010年1月31日(日)9:30～11:00

場所：早稲田大学2号館203号室

出席：遠藤、小野、竹村、百原、吾妻、池原、長橋、
 須貝、久保、苅谷、植木、中野(事務局)、佐藤
 (記録)

オブザーバー：奥村、高田、三田村

議事

(1) 直後に予定されている評議員会にて行う報告・
 審議内容を確認し、5月開催予定の国際野外研究
 集会「Active Tephra in Kyushu, 2010」の共催と
 助成、INQUA 招致委員会活動報告を追加報告す
 ることとした。

(2) 評議員選挙の方法について審議し、評議員会
 ではかることを確認した。

(3) 増員した新規幹事・副会長の役割分担につ
 いて検討した。竹村副会長はINQUAを除く渉外、小
 野副会長は法務とINQUA関係、高田幹事は企画、
 渡辺幹事は庶務(転載許可)と法務関係、三田村
 幹事は庶務(賞関係)を分担することが確認された。

- (4) 日本地質学会関東支部 2010 年秋期シンポジウムへの共催依頼については、継続審議とした。
(5) 次回幹事会は、2010 年 4 月 10 日（土）午後
後に早稲田大学で開催することとした。

◆ 2010 年度地球化学研究協会学術賞「三宅賞」・「奨励賞」候補者の募集

1. 三宅賞
対 象：地球化学に顕著な業績を修めた研究者
表彰内容：賞状、副賞として賞牌および賞金 30 万円、毎年 1 件（1 名）
2. 奨励賞
対 象：2010 年 4 月 1 日の時点において 40 才未満で、地球化学の進歩に優れた業績を挙げ、将来の発展が期待される研究者
表彰内容：賞状および賞金 10 万円、毎年 1～2 件（1～2 名）
3. 応募方法：地球化学研究協会のホームページからダウンロードした申請書に、略歴・推薦理由・研究業績などを記入し、主な論文 10 編程度（三宅賞）、2 編程度（奨励賞）を添えて、下記のあて先へ送付して下さい。応募書類等は三宅賞及び奨励賞選考のためにのみ用いられます。
4. 締切日：2010 年 8 月 31 日
5. 地球化学研究協会ホームページ：<http://wwwsoc.nii.ac.jp/gra/>
6. 応募先：〒 100-8212 東京都千代田区丸の内 1-4-5
三菱 UFJ 信託銀行リテール受託業務部公益信託グループ
(公益信託) 地球化学研究基金 江川康治
7. 問合せ：地球化学研究協会事務担当まで、電子メールでお願いします。
E-mail: eitaro1939(at)yahoo.co.jp

★★★ 第四紀通信に情報をお寄せ下さい ★★★

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。
広報幹事：荻谷愛彦 (kariya(at)isc.senshu-u.ac.jp) 宛にメールでお送り下さい。
第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月 1 日刊行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が完成した段階でホームページに掲載するよう努力しています。奇数月 15 日頃にはホームページにアップするようにしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 専修大学文学部環境地理学研究室 荻谷愛彦
〒 214-8580 川崎市多摩区東三田 2-1-1 電話：044-911-1014 FAX：044-900-7814

広報委員：越後智雄・糸田千鶴 編集書記：岩本容子

日本第四紀学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr/index.html> から第四紀通信バックナンバーの PDF ファイルを閲覧できます。

日本第四紀学会事務局 (2010 年 2 月 1 日より住所変更)
〒 169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号 新宿ラムダックスビル 10 階
株式会社春恒社 学会事業部内
E-mail: daiyonki(at)shunkosha.com 電話：03-5291-6231 FAX：03-5291-2176